

投資に役立つ

経済ワード

Vol.12

債券価格と金利

債券は、国や地方公共団体、企業などが資金調達のために発行します。

一般的に債券を購入すると、利払日に利子が支払われ、償還日（満期日）に額面金額が払い戻されます。途中売却もできますが、日々の債券価格は金利の動向などにより、変動します。



利子収入の「クッション」で金利上昇の衝撃をカバー

金利が上昇すると新たに発行される債券（新発債）は金利が高くなるため、金利が低い時に発行された債券は魅力が低下し、債券価格は下落します。金利が低下すると新発債は金利が低くなるため、金利が高い時に発行された債券は魅力が高まり、債券価格は上昇します。

一方、投資家が受け取る利子収入は金利変動に関わらず一定で、常にプラスとなります。利子収入の積み上げによる十分な「クッション」があれば、金利上昇による債券価格の下落を、ある程度カバーすることができます。

デュレーションが短い程、金利変動の影響を受け難い

債券投資において、金利変動の影響がどの程度になるかを見る指標に「デュレーション」があります。デュレーションの長い債券ほど債券価格の変動幅は大きくなります。例えば、金利が1%上昇すると、デュレーション2年の債券Aの価格は1%×2年＝約2%下落し、デュレーション5年の債券Bの価格は約5%下落します。

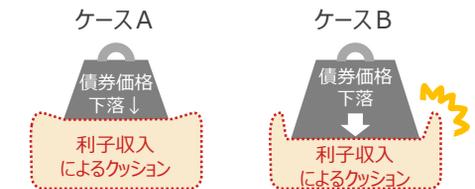
また、債券価格と利子収入の両方を考慮した「利回り」を「デュレーション」で割ると、1年間でどれくらいの金利上昇まで耐えられるかをおおよそ計算することができます。例えば債券Aが利回り3%とすると、3%÷デュレーション2年＝1.5%となり、1.5%の金利上昇までであれば、債券価格下落を利回りでカバーできるということになります。債券投資では利子収入の活用がポイントになります。

■金利上昇・低下時の債券価格と利子収入

	金利上昇	金利低下
債券価格	- 下落	+ 上昇
利子収入 (クーポン)	+ 変わらず	+ 変わらず

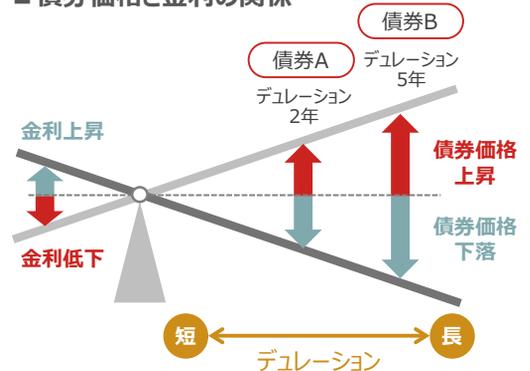
上記は、債券発行時にあらかじめ利率が決定している固定利付債券の場合を示しています。

■金利上昇時のクッションのイメージ



上記はイメージ図です。

■債券価格と金利の関係



上記はイメージ図です。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。